



「笑顔とつながり」

永田台

サステイナブルスクール

No.562 10月号
横浜市立永田台小学校
TEL (714) 4277
令和4年 9月30日



進んであいさつ
笑顔あふれる
住みよいまちに

永田中学校の授業を見学して

校長 松本 久美子

台風が相次いでやってきました。先日の授業参観・懇談会の日とも重なったため、不自由な思いをさせてしまい、保護者のみなさまには大変ご迷惑をおかけしました。足元の悪い中でもご来校いただき、ありがとうございました。

先日、永田中学校の授業研究会に参加し、主に1年生の英語の授業を参観してきました。永田中学校では「5（ファイブ）ラウンドシステム」という英語の学習方法を取り入れていました。1学年の間に教科書をいろいろな学習方法で5回繰り返す方式です。ユニット（単元）を一つずつ時間をかけて行うのではなく、最初は教科書全体を音声で聞くことから初めて、ざっくりとした内容を聞き取ったり会話を取り出したりして、自分のことを話す活動を入れます。途中、読んだり書いたりする活動を少しずつ入れ、最終的に教科書の内容を理解したり、第三者に伝えたりする活動をするものです。発音や文法指導を重視した今までの授業形式とは全く違うやり方です。

参観してとても驚いたのは、生徒たちが自主的に英語を使って「自分のことを」生き生きと友達に話していたことです。そして、文法の学習をしていなくても英語を聞き取って、書いてある文を入れ替えたり、内容を答えたりしていたことです。

永田中学校の英語担当の先生の言葉です。

「文法というルールを先に覚えるとそれに縛られてしまい、英語を正確に話したり書いたりすることばかりに気を取られてしまいます。」これは自分が学生時代に体験してきたことです。文法的に正しい英語を話さなければと思い、口ごもっていました。

「ところが、いろいろな表現を知ってからルールを知れば、理解がたやすくなります。」私は「なるほど!」と思いました。小学校で音声を中心にいろいろな表現を繰り返し「聞く」、慣れ親しんだ英語を「話す」と、永田中学校で行っている5ラウンドシステムは似たことをしているのだということが分かりました。

「英語を使うことは楽しいという気持ちをもって中学校に送り出してほしいです。」技能を身につけることがめあてなのではなく、コミュニケーションを楽しみと思える子どもを育てることが大切なのだ改めて思いました。

横浜市では1年生から外国語活動を行っています。（学習指導要領では3年生からとされています。）今、小学校で学習している外国語活動・外国語の授業がどのように中学校の英語の授業につながっていくのか、とても興味深く見せてもらいました。

永田中学校に向かう途中、たくさんの生徒さんが気持ちの良い挨拶をしてくれました。数年後、永田台小学校の子どもたちも、そのような人に育っていくと嬉しいなと思いました。

